

# 消費増税に伴う反動減は非製造業で影響大

## 4月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

### 概況

消費増税に伴う反動減は、製造業より非製造業の方が影響が大きく、消費税転嫁については概ね適正に行われている様子である。しかし、人材不足・原材料高騰等不安材料は山積し先行きを不安視している。

製造業	食料品		パン・菓子は消費増税による落ち込みは見られず売上は昨年並みに推移し、一部店舗では販売価格の値上げも散見される。製麺は、消費税の価格転嫁は比較的スムーズな様子だが、原材料高騰に伴う販売価格の値上げが困難で厳しさは増している。酒造は、大吟醸酒等の特定名称酒の売上が良好である。
	繊維・同製品		婦人服地は秋冬用の受注時期で例年並みの動きである。伊勢崎織物の売上は低調で小口商いが中心である。繊維製品は、消費増税後は売上が伸びず、稼働率が下落している。ニットは消費増税による売上の落ち込みは見られない。
	窯業・土石製品		生コンは、全体的には官公需・民需共に良好で出荷量は前年より増加している。コンクリートブロックは、3月の受注残による売上があり前年より増加している。コンクリート製品は上昇傾向である。砕石は、群馬県基礎単価が増額改定され販売価格は上昇傾向だが、燃料や消耗品等の値上がりで収益改善は難しい。
	機械・金属		景気回復感が実感しづらい中、建設・自動車関連は引き続き堅調を維持している。富士重工は過去最高業績を実現し、関連企業も売上・収益共に増加、二次下請以降は依然厳しいが明るい要因に期待している。電機は4～7月の季節商品の売上は昨年より上向くと予想するも、経費を極端に抑える「節約志向」が続く見込みである。プラスチック金型の売上は昨年並みに推移している。
	その他の製造業		製材は、昨年と比較すると荷動きは鈍化し、販売価格も下落傾向である。紙加工品は、消費増税に伴う反動減の影響は少ない。印刷業は、全体的に稼働状況は上昇傾向だが、チラシ等の大量印刷は需要が減少している。また、原材料の高止まり傾向が続いている。ゴム製品は、一部で人材不足の状況が散見される。
非製造業	卸売業		機械器具が設備投資の好調で売上が微増するも、今後の見通しは不透明である。農産物卸は月初めに取引高が急激に落ち込んだが、その後前年並みに推移している。水産物卸も買い控えに伴う売上の落ち込みが見られた。
	小売業		家電小売は、消費増税に伴う反動で売上は減少している。中古車オークションは、昨年度末分の下取り車等により、出品状況は大きく好転するが成約状況は低水準である。ガソリン小売は、消費増税の転嫁は概ね順調だが販売価格上昇等で販売量は減少している。商店街はイベントは賑うものの売上は落ち込んでいる。
	サービス業		温泉旅館は、GW前半の入込は良くなく、大手旅館・ホテルでは団体客が減少している。不動産は、二極化が進行すると共に、高齢化も進み廃業する組合員も増加傾向である。建物設計業は、省力化工法に対するニーズが高まっている。
	建設業		総合工事業は、工事量は減少傾向の見通しで人材・資材不足も懸念している。電気工事業は、3月分の工事残に追われ忙しさが続くが、一部では反動減も散見される。塗装工事業は、2月の雪害の影響による復旧工事が増加している。鉄構は、販売価格は上昇傾向だが、コストが上昇し、収益増加に結びついていない。
	運輸業		消費税増税の反動減で荷動きは低調である。自動車関係は減少、GWに向けた飲料水の荷動きも低調、一方、野菜は増加している。倉庫は夏場向け商品の備蓄で満杯である。軽油価格の高騰と高速道路の割引率減少でコスト増の状況である。小口輸送は、食品関係、自動車部品関係、単身者の引越しが増加している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

### 県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 111.0(前月比+1.3%)「県統計課・3月」
- 販売電力量 136,857万kWh(前年同月比+2.8%)「東電群馬支店・3月」
- 住宅着工戸数 1,188戸(前年同月比+4.6%)「県建築住宅課・3月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.75倍・有効1.17倍「群馬労働局・3月」
- 大型小売店販売額 259億円(前年同月比+13.2%)「経済産業省・3月」
- 消費者物価指数(全国) 101.0(前年同月比+1.6%)「総務省統計局・3月」  
(鉱工業生産指数・消費者物価指数は22年=100とした指数)